



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.20 June 10, 2010

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

ジョークと私

on the facts of life

新堂 睦子



ジョークをユーモアとして、*The Remains of the Day* を素材にします。Kazuo Ishiguro 原作は本会会員・土屋政雄氏の名訳があります。小説の筋は本でお読みくださいますよう。

二つの大戦の間に関係国を宥和させるべく邸内で秘密会議準備中、Lord Darlington は、執事 Stevens を呼び、用をいいつけます。卿の親友の子息で、卿が名付け親となったジャーナリスト Young Mr. Cardinal に、“facts of life”を教えてください、というものです。この 23 才の若者は結婚を控えています。もともとは父親 Sir David Cardinal の依頼です。以下この人びとのかみ合わない対話を記します。

Lord Darlington: You are familiar, I take it, with the facts of life.

Stevens: Sir?

Lord Darlington: The facts of life, Stevens. Birds, bees, aren't you?

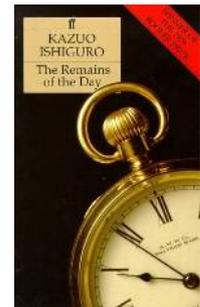
Lord Darlington: I'd be grateful if you'd even try, Stevens. Look here, there's no need to make a song and dance of it. Just convey the basic facts and be done with it. Simple approach is the best

Stevens: Excuse me, sir, but I have a message

to convey to you.” “Oh, really?” **Mr Cardinal** said eagerly, looking up from his papers. “From Father?”

Stevens: Sir David wishes you to know, sir, that ladies and gentlemen differ in several key respects.

Young Cardinal: Father is perpetually underestimating me. I've done extensive reading and background work on this whole area.



思わず笑みを誘うくぐりですが、執事として義務を追及するあまり、愛、家族、結婚、子どもなどは、Stevens には最も縁遠い事柄です。また人生の黄昏にさしかかるまで、Darlington 邸の、元 housekeeper, Miss Kenton の彼に寄せた思慕の念に気づかぬ鈍さ、また、Lord Darlington は、戦後、宥和政策の先導者として非難され、不遇のうちに世を去り、Young Cardinal は出征して、ベルギーで戦死したことを思うと、ユーモアは決してなだらかではない人生の一端とも感じ入ります。だからこそ、ユーモアは金剛石のように輝くのではないのでしょうか。

ただ、この物語のエンディングは、Steven が新たな希望いだいて Darlington 邸の新しい主人、アメリカ人 Mr. Farraday の元に戻るところで終わります。

第 20 回研究発表会

Headline Jokes

～ジャーナリズムのみだしなみ～

草野 淳

ギリシャの財政危機を解説したニューヨーク・タイムズ国際版インターナショナル・ヘラルド・トリビューン紙で、Greece's joining gave euro an Achilles' heel (ユーロ=欧州単一通貨同盟にとっては、ギリシャが仲間入りしていることでアキレス腱になっている) という名見出しを目にした。

ギリシャの話にふさわしく、早速神話のアキレスを持ってくるところはさすがのセンス、と感心させられる。

長年英語メディアに親しみ、折に触れこうしたヘッドラインのユーモアを楽しんで来た。そこで今回は、時折出会っては気長、気ままにコレクションして来た、ユーモア心に響く見出しのジョーク話を取り上げ、発表させていただいた。

そもそも新聞や雑誌の記事は見出しで読ませる、とも言われる。その昔、ニューヨークの大衆紙ニューヨーク・ポストに、Headless Body In Topless Bar (トップレスバーに首無し死体) の気のきいた見出し文字が大きく踊り読者をうならせた、と聞く。

日本の新聞・雑誌にはこういう遊び心がきわめて少ないのではないか。そこはやはりギャグやウィットが日常の生活に染み込んだ英語国文化とのちがいだろう。

そうした Headline Jokes のアラカルトを並べてみるに当たって、自らもまたユーモア精神を発揮すべく「ジャーナリズムのみだしなみ」と副見出しを洒落てみた。

その出だしのファッションに僕自身の遊び心をもって選んだのが英誌エコノミスト('07/12/15～21号)の表紙。ロシアのプーチンがメドベージェフの顔のハンカチを背広の胸のポケットにさした気取ったポーズの姿写真である。首相プーチンにとっては大統領メドベージェフなどその程度のちっぽけな存在、というわけだ。なんともユーモア溢れるアイロニーで核心を突いたあしらいではないか。

同誌の表紙にはいつもながらその格調高いセンスに心地よい興奮を覚え心から敬服している僕だが、なかでも忘れられないのは、中台関係を取り上げた傑作。中国の兵士が長い中華箸を使って餃子のような形をした「台湾」を中華どんぶりの青い海からヒョイと摘まみ上げているイラスト('96/2/3～9号)。中国と台湾のパワー・ポリティックスをこれほどずばりとリアルに描いた構図はめったにあるまい。しかも横に大きな文字で Don't even think about it (その気になってはいけません) と、同誌としての抑制のアドバイスを付けて忘れていない。



チベット情勢が不穏になると、Hu's afraid of the Dalai Lama (Hu は胡錦濤の姓の現地音読み)、金正日の健康状態が取り沙汰されると、Kim Jong Ill or Kim Jong Well?

同性婚論議に世論が割れるアメリカを皮肉って State of the Union (union は civil union = 共同生活のことで marriage に対する民法上の“実態解釈”) と、アメリカ大統領の施政方針演説「一般教書」に掛けて…。いずれも駄洒落とは言い捨てられないエコノミスト誌の粋な工夫である。この種の語呂合わせには、ICHIRO THE HERO のような他愛無い作り (タイム誌 '01/6/11～17号) もあった。しかも最後の O の文字を野球ボールの模様入りにする茶目っ気も。だが、そのタイム誌が、イラク戦争の真偽を問う重大問題になった大量破壊兵器 (Weapons of Mass Destruction) の存否には、Weapons of Mass Disappearance (姿なき～) と痛烈な一撃を報いる。このところ大荒れに荒れたタイ・バンコクの情勢を分析したコラム記事 ('10/4/14 付ヘラルド・トリビューン紙) のさりげない見出し Thai expectations は、民主化を切望するタイ国民の High expectations (高い期待感) と見事に掛け言葉になっていることが、記事内容からわかった。そんな微妙な読みもときには要求されるのが見出しの世界だ。

発表の時間も紙幅も足りず、残りはあつかましくも Part II 回しとなった。映画のタイトルや CM のせりふを絶妙にアレンジしたものも、これまた捨て難いジョークの道草。

今回は鬱陶しいツユのさなかでしようが、いささかの涼味に暫時おつき合い下さい。

第 20 回研究発表会

「なるほどね」は至福の時

第 5 回ジョーク・コンテスト観戦記

長谷川真弓

ジョークコンテストは楽しい。提示されるジョークの中でなかなか理解できないことも多いのだが、それはその都度お歴々にうかがって「なるほどね」と納得する。この瞬間が得も言われぬ至福の時である。

人生「なるほどね」を何回発するかでその人の成熟度が決まるという説もある。このゲージで計るなら、私は連発派だから、まさに熟女路線をひた走る。毎回超利口になって帰る。

今をときめくねづちに触発されてなぞかけを試してみる。

「ジョークコンテストとかけて神奈川県と解く。その心は海岸（開眼）に恵まれる」。

5月15日の第5回ジョーク・コンテストは、これまでにいちばん多く 32 の出品数だった。会員の新堂睦子さんのてきぱきしたMCで審査が進行する。前々回から 15 ワードという語数制限を設けたので、スクリーンで紹介されても即座に対応できる。今回みなさんの賛同を最も多く得たものからご紹介する。

4. Girl: Aren't the stars pretty tonight?

Boy: I'm in no position to say.

(7 票) (長谷川み出品)

説明、ヒント不要で即納得。まさかツンドラ地帯ではあるまい。熱気はあろうが風邪をひかせたくない。

6. 同じく 7 票獲得で語数が 2 語多かったため 2 位になった prison joke.

“What did your father say when you were taken to prison?” “Hello, son.”

(豊田出品)

刑務所でご対面。親子の仲が睦ましいようでー。

8. は 6 票を獲得し 3 位。

A new speaking scale, when a lady tried whispered, “No two people, please!”

(深澤出品)

音声ガイド付きの体重計がメタボのご婦人に話しかけるという設定でグフッ！ こんな態度の悪い体重計は買わないことにしようとひそかに決意。

優秀作品上記 3 つの次に票を集めた 3 作品をご紹介します。

21. When a man holds a woman's hand before marriage, it is love. After marriage, it is self-defence.

(相原出品)

みなさんこれからご臨終まで腕力が大切。

24. The last wish of the Icelandic economy was that its ashes were spread all over Europe.

(小池出品)

Iceland economy さんの遺言は遺灰をヨーロッパ中にまき散らしてほしいとー。火山噴火の大迷惑に皮肉をこめて。

27. Bulldog for sale.

Will eat anything.

Especially fond of children. (服部出品)

2 行目と 3 行目の入れ替えで、子供達をむしゃむしゃ食うブルドッグに。ペットショップ売れ筋に？

今回のコンテストで私のお気に入り。

9. When one door closes, another shuts.

(新堂出品)

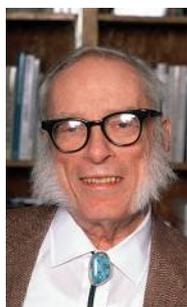
another opens をちらっと裏切るブラックセンス。

みなさん開眼のひと時を有難う。こんなにお世話になっては、麴町の方向に足を向けて寝るしかない。

女性はジョークが不得手？（上）

宮本 倫好

我が会員は圧倒的に男性で、女性会員は入ってもなかなか長続きしません。これは世界的な傾向のようですが、理由は、女性は（1）人生に対する態度が真面目で、ジョークに向かない。（2）艶笑ジョークが多く、嫌悪感を持つ。（3）男性優位の社会観が底流にある一などと言えそうです。男性は blonde joke などを大いに楽しめますが、解放された女性は、こんな女性像も我慢できないのでしょうか。



自身 jokester でもある作家 Isaac Asimov はこう言っています。Telling a joke is aggressive, and girls are taught from childhood not to be aggressive. Their role is to laugh at jokes told by men, not to compete telling them.

それだけに、女性に対するジョークにはより細やかな心配りが必要で、Asimov は自戒を込めて次の話を紹介しています。

Asimov の妻 Janet は乳房の片方を取る手術を受けました。後年、Janet の友人（女性）と3人の間で、swinging singles bar（飛んでる独身者向きのバー）が話題になり、友人が Janet に聞きました。“Were you ever at a swinging singles?” これに対し、Asimov がすかさず口をはさみました。“At a swinging single? She has a swinging single.”

友人は無神経なこの言葉に激怒しましたが、Janet は冷静に答えました。“Leave him alone. I don't have one big enough to be a swinging single.” この場合、swinging single とは、「ぶらぶらするオッパイの片方」という含意で、Janet は心ない Asimov の冗談を巧みにかわしたのです。

Asimov も妻のこの機転に大いに感心し、著作の中で自分の粗野さを心から恥じています。

第21回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：7月17日（土）午後2時～4時
- 会場：平河町 Mercury Room
（クオリティ(株) 6階会議室）
（東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル）
- 交通：地下鉄・有楽町線麴町駅1番出口より徒歩2分。地図⇒<http://www.quality.co.jp/>
- プログラム
 - ① 「続・Headline Jokes
～ジャーナリズムのみだしなみ～」
発表＝草野 淳 会員
 - ② パネル・ディスカッション
「国際ユーモア学会に参加して」
パネリスト＝植田良明・長谷川真弓・長谷川幹夫・宮本倫好 各会員
司会＝安藤雅彦 会員
- 参加費：会員・非会員とも500円。
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com

大塚英語教育研究会 7月例会のお知らせ

7月10日（土） 2:30～5:00

会場：共立女子大学（神保町）本館108教室

1. 会員発表（14:30～15:30）
 - 高木修一 氏（筑波大学大学院）
「再読指導の効果」
 - 小林真悠子 氏（筑波大学大学院）
「読み手の予期的推論を促すテキスト要因」
2. 講演（15:40-16:40）
 - 土屋政雄 氏（翻訳家・本会会員）
「翻訳の実際—Mrs Dallowayの場合」
（参加費＝500円。会場は女子大ということもあって、前もって出席者の名前を届けることになっています。出席ご希望の方はお知らせください。もちろん、土屋氏のご講演のみお聞きいただいても結構です。豊田一男）

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第20号

発行日：2010年6月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル

クオリティ株式会社 気付

TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130

問合せ先：renraku@eigojoker.com

